

県生協連 NEWS

●発行：徳島県生活協同組合連合会

●発行日：2024年1月11日 (No.27)

●住所：徳島県板野郡北島町中村字東堤の内30-3

●TEL：088-698-0505



『徳島県共済生活協同組合（こくみん共済 coop 徳島推進本部）』事務局

徳島県共済生活協同組合（徳島県共済生協）は、元受事業である「総合（慶弔）共済」の普及活動をおこなっています。もう一つの一面で、全国労働者共済生活協同組合連合会<こくみん共済 coop>の会員として、生活全般をサポートする「各種共済」の普及活動や防災・減災の意識を高めるための「ぼうさいカフェ」、将来あるこどもの健全育成をめざした「こどもの成長応援プロジェクト（こどもの成長応援・7才の交通安全）」などの社会貢献活動にも力を入れて取り組みを行っています。

今後とも徳島県共済生協（こくみん共済 coop 徳島推進本部）の活動にご理解ご協力をお願いいたします。

目次

- p1 新年のごあいさつ（徳島県生活協同組合連合会：会長 大久保 秀幸）
- p2 会員報告 徳島大学生生活協同組合
- p3 会員報告 徳島健康生活協同組合、徳島県職員生活協同組合
- p4 会員報告 徳島県共済生活協同組合
- p5 会員報告 生活協同組合とくしま生協
- p6 会員報告 徳島県学校生活協同組合
- p7 会員報告 生活協同組合コープ自然派しこく



新春のご挨拶

徳島県生活協同組合連合会 会長 大久保 秀幸

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。
平素より、会員生協の皆さまには連合会の活動にご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスが5類に移行され、With コロナの生活習慣が定着され、消費者のくらしも通常に戻りつつあり、各会員生協とも以前の事業活動や取り組みが本格的に再開されてきています。

しかし、世界情勢では2022年にはじまったロシアによるウクライナ侵攻は、未だ収束せず大勢の犠牲者が出るなど平和を脅かし、原油価格の高騰などを引き起こしています。その影響は電気や原材料の高騰となり、特に昨年度は商品価格の高騰へ転嫁され商品の値上げラッシュが続き組合員、消費者のくらしに大きく影響を与えました。

そんな中、生協連では組合員や消費者のお役にたてるよう協同組合の連携を図り一つの生協では難しいことでもそれぞれの強みを生かし誰一人取り残さない「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けて協議し取り組んでまいりたいと考えております。

さて、2024年の干支は「甲辰(きのえ・たつ)」です。

「甲辰」は「春の日差しがあまねく成長を助く年」となると言われています。また春の暖かい日差しが大地すべてのものに平等に降り注ぎ、急速な成長と変化を誘う年になると言われています。

その干支にあやかり少しでも早い時期に組合員、消費者のくらしに役だてる年にしていきたいと思えます。

今年も厳しい経済環境が予測されますが、あらためて一人ひとりの消費者のくらしに合わせたとりくみを充実させるとともに、さらに深化させていくことを目指していきます。

本年も、今まで同様、組合員のみなさんのご支援をお願い申し上げますとともに、みなさんのご多幸を祈念申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。



○徳島大学生生活協同組合

〒770-0814 徳島市南常三島1丁目1
TEL088-652-1073 FAX088-626-5811
ホムパ→

<http://ha1.seikyuu.ne.jp/home/tokushima-shop1/>

- 理事長 島本 隆 ●専務理事 神田 斉宜
- 組合員 9,600人 ●事業高 10.9億円

あけましておめでとうございます。

徳島大学生協は大学におけるあらゆる学びを支えるため、購買・書籍や食堂のほか、学生の学び成長に貢献するための各種講座や体験の機会づくりなど、様々な事業を展開しています。

2023年は様々な大学生活の規制がなくなり、対面による講義が増加、大学祭をはじめとする諸行事もコロナ以前と同様に行われるようになりました。しかし学生の生活や意識にはその痕跡が色濃く残っています。

大学への登校の様子はコロナ前に戻りつつありますが、講義と講義の合間には自宅に帰り過ごす学生が増えています。以前は空きコマに学内のあちこちにあふれていた学生も、現在は教室そばに自転車を止め、終了と共に帰宅する姿が多数見られます。生協のお店の利用の仕方にも違いが見られ、友達との交流に欠かせないお菓子や飲料の利用は少なく、学内の中心にあるカフェの利用は大きく落ち込んだままです。昼休みを中心に学食の利用だけがコロナ前を凌ぐ状況ですが、生協全体の利用者数はいまだに3/4にとどまります。学生たちのコミュニティも小さくなり、お互いにどこに住んでいるか知らない（教え合わない）という傾向さえ見られます。それでも学生たちは制約のない時代の到来に喜び、経年で調査しているアンケートではかつてないほどの大学生活の充実度となっているようです。

このようなアフターコロナ時代に私たちは何を行っていくべきか。大きな歴史の節目を体験し生活や価値観さえも変化したいま、私たちは徳島大学生協の役割と今後の活動の方向性を改めて定義する必要があると考えました。大学執行部や学生、生協職員等の意見も得て討議を行い、2023年の総代会において「新しい徳島大学生協のミッションとビジョン」を採択しました。この中では特に、人と人をつなぎ組合員同士の交流を促進することを改めて大切な役割と定義しま

した。そして将来を健康で豊かな人生にするためにも、仲間と助け合いよりよい大学生活を送れるよう応援します。「ときめき、たすけあい、ずっと笑顔に」を合言葉に、すべての組合員とともに実現できるよう取り組みます。

2024年はコロナにより大きく傾いた生協の経営再建において重要な年になります。同時に、あたらしいミッションとビジョンを本格的に実践する年でもあります。組合員とともに将来にわたる豊かな人生に貢献する取り組みを、飛躍的に前進させる年としたいと考えています。

徳島大学生協 専務理事 神田 斉宜

徳島大学生協のミッションとビジョン

「ときめき、たすけあい、ずっと笑顔に」

大学の学びや交流にときめき、仲間との協同(たすけあい)、そして将来(夢)につながる笑顔を実現したい!

徳島大学生協の理念 1957年11月14日創設以来、
企業の設立の精神をこの日まで
徳島大学生協同組合は、大学の目的に添い、大学の目的
を福利学生の側面より発展させるために、組合員の意思に
基づき運営し、組合員の文化的・経済的・生活の向上をはかる
ことを目的とします。 (協定趣意書より)

徳島大学の理念
自主自立の精神に基づき、真摯
の態度で教育活動を行い、学生
に学ぶ喜びを体験し、向上心
を育て、世界に開かれた大学として、
社会で活躍する人材を育成する。
(徳島大学構想より)

新しい徳島大学生協のミッション

徳島大学生協は、すべての組合員が将来にわたり笑顔でいつづけられるよう「学び」「暮らし」「つながり」を活動の柱に、相互に「助け合い」協同する 事業と文化をつくり出す。学び成長し自ら強く夢の実現を後押しするとともに、豊かで健全な未来社会の実現に貢献する徳島大学とともに歩み続けたい。

(2023年第38回総代会)

すべての
組合員の
みなさんへ

生協は、組合員みなさん自身の方で運営され、日頃の様々な課題を解決したりより良くなる「協同組合」という仕組みです。必ず助け合い、力を合わせることができるとは限りません。お互いに「ときめき、たすけあい、ずっと笑顔に」の実現を目指して、一緒に取り組んでいきましょう。

徳島大学生協がミッションを果たしていくため、少し先の未来(約10年後)に到達していきたい目標を設定し、次の「3つのビジョン」を掲げます。

○徳島健康生活協同組合

〒770-8547 徳島市下助任町4丁目9
TEL088-654-8363 FAX088-625-0058
ホ-ム-ペ-ジ <http://www2.tcn.ne.jp/~hcoopt/>
●理事長 児嶋誠一 ●専務理事 吉野才治
●組合員 43,533人 ●事業高 47.0億円

新年、あけましておめでとうございます。

昨年は、ロシアのウクライナ侵略に加えて、イスラエルのガザ攻撃と世界の平和と進歩への大逆流の年でした。医療従事者として、ガザの深刻な人道的危機の打開は一刻の猶予も許されません。国際紛争解決の手段としての戦争を永久に放棄した憲法を持つ国民として、「ガザ攻撃の即時中止」と「即時停戦」を求めるイスラエルに向けた緊急の行動をとるよう、引き続き岸田政権に要請していきたいと思います。

また、年末に、条件付きではあるものの、殺傷兵器の完成品の輸出が解禁されました。第1号は米国へのパトリオットミサイルの輸出ですが、戦闘地域での需要が高まる中で、米軍の武器不足を補うための輸出となり、日本製が「戦闘国」で使われていなくても、米軍の在庫補充で、間接的に日本が紛争を助長することになります。これは、武器輸出3原則の完全な逸脱であり、なし崩し的な九条改憲にほかなりません。ますます憲法を守る運動が重要になってきます。

一方で、物価高騰への対応、新型コロナの診療に対する報酬の特例が大幅に縮小され、医療機関・介護施設などの経営は厳しさを増しており、人材確保も困難になっています。厳しい経営は医療・介護職の人手不足や長時間労働などの激務に拍車をかけ、22年は介護職をやめる人が働き始めた人を6万3千人上回る「離職超過」となりました。医療職でも、離職率と入職率が拮抗しています。

政府は「財政健全化」のためと言いながら、防衛費の増額には一切切り込まずに、「医療・介護の過剰な給付を抑制していく」ともっぴら社会保障の改悪を中心に据えています。そういった状況の中で、診療報酬・介護報酬のダブル改定が行われました。

この間の私たちの要求運動の広がり、人件費に当たる「診療報酬本体」をマイナス改定から0.88%引き上げる方針に転換させました。介護報酬も物価高や人手不足への対応として、2月からの約6000円の賃金引き上げに加えて、介護報酬を1.59%引き上げる方向に変わりました。

しかし、診療報酬では、医療費の自然増部分を抑えるために、「薬価」を1%程度引き下げ、診療報酬全体ではマイナス改定となるように調整しています。また、介護分野では、他産業との大きな賃金格差が解消されるまでには至りません。

昨年の春闘の賃上げ率が全産業平均で3.58%だったのに対し医療・介護分野は1%台にとどまっています。政府が賃上げで経済の好循環をけん引するつもりであれば、それを保証するさらなる診療報酬・介護報酬の引き上げが当然です。

それにより、患者・利用者への負担増につながらないように、低すぎる公的支出を欧州諸国並みに引き上げる働きかけも強めていく必要があります。

また、今年から勤務医の時間外労働の上限規制が始まるため、必要な診療体制を維持するために、非常勤医師を増やすなど相当な費用負担もかかってくる。

このままでは地域の医療・介護を維持できなくなります。

地域医療を守るためにも、社会保障を守る運動と医療・介護活動の2本柱で奮闘してまいりますので、今年もよろしく願いいたします。

徳島健康生協理事長 児嶋誠一

○徳島県職員生活協同組合

〒770-8570 徳島市万代町1丁目1（県庁内）
TEL088-621-3061 FAX088-624-0170
●組合長 梅田 尚志 副組合長 多田 要
●組合員数 4,034 ●事業高 1.12億円

新年あけましておめでとうございます。

徳島県職員生活協同組合では、県職員の福利厚生の一翼を担い、組合員に親しまれる生協として、売店事業における「新商品の供給、販売」や食堂事業における「新メニューづくり」など、様々な工夫を重ねています。

新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、県庁万代庁舎11階の食堂、地下1階の売店でも、適切な感染予防対策を取りつつ、日常を取り戻すとともに、販売促進に努めております。

昨今の物価上昇や人件費の上昇を受け、先行き

が不透明な厳しい経営環境にあります。食堂においては、関係機関とタイアップした食のフェアを開催しており、8月には「野菜接種量アップ応援フェア」として、「野菜増量メニュー」を提供した他、9月には「福島×徳島”海の幸”フェア in 県庁食堂」として、福島県産のサバ・メヒカリ等、徳島県産のハモ・カマス等、両県の海の幸を使った特別メニューを提供し、福島県を応援するとともに、徳島県の美味しいお魚の利用者の方に大変喜んでいただけました。

また、徳島県産のブランド農産物を使ったフェアも開催しており、ニンジンやとうもろこし、茄子や椎茸、鳴門金時、レンコン等を使った料理を提供し、好評をいただいております。

さらに、牟岐町と徳島県南部総合県民局のご協力のもと、県南特産品を用いた料理の提供及び、特産品の売店での販売を検討しております。

これからも組合員の利用拡大や継続的利用を目指して、徳島のブランド特産品を活かしながら、季節や時の話題に応じた、魅力的なイベントを実施していきたいと考えています。

もとより当組合は、組合員が県庁職員という限られた範囲の活動ではありますが、改めて「職域による人と人との結合」、「共同互助の精神」という組合の原点に立ち返り、組合員の皆様に愛され、親しまれる生協として、視野を広く持ち、時代のニーズや組合員の要望に即した事業展開に努めていければと考えております。

県生協連の皆様におかれましても、今後とも県職員生協へのご理解と変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

徳島県職員生活協同組合 組合長 梅田 尚志

○徳島県共済生活協同組合

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1
TEL088-676-3593 FAX088-625-2131
ホームページ <https://www.zenrosai.coop/contact/zenkoku/tokushima.html>

●理事長 大谷 竹人 ●専務理事 乾 浩二
●組合員 88,205人 ●事業高 約384億円

新年、明けましておめでとうございます。

徳島県生協連加盟の各役職員、組合員の皆様には輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃のご支援に感謝申し上げます。

さて、1983年に誕生した「こくみん共済」は、

おかげさまで昨年5月に、40周年を迎えました。はたらく仲間のたすけあいとして始まった共済を、より多くの方に届けたいとスタートしたのが、「こくみん共済」でした。手頃な掛金の保障で、一人ひとりの暮らしに合わせた安心を提供し、もしもの際には、共済金をお届けする。そんなことを40年間変わらず続けてこられたのは、たすけあいの輪に参加いただいたみなさまのおかげです。

「こくみん共済」誕生40周年記念感謝イベントとして、～希望を歌い上げるファンタジーミュージカル～「オズの魔法使い」(徳島公演)を2月3日(土)10:30開演(10:00開場)・藍住町総合文化ホールで実施します。600名様をご招待いたしますので是非お越しください(詳しくは添付のチラシを参照してください)。

徳島県共済生活協同組合
理事長 大谷 竹人



〇生活協同組合とくしま生協

〒771-0289 北島町中村字東堤の内 30-3
TEL088-698-0505 FAX088-698-872
ホームページ <http://www.tokushimaseikyoku.or.jp>
●理事長 大久保 秀幸 ●専務理事 堺谷 信行
●組合員数 121,551 人●事業高 116.3 億円

組合員さんの暮らしに役立ち・喜んでいただくを最も大切に!

新年あけましておめでとうございます。

2020年1月に確認された「新型コロナウイルス」は、昨年5月から5類へ移行し、様々なイベントや取り組みがコロナ禍以前のように開催されました。

とくしま生協では、徳島県が主催 SDGs シンポジウム 2023 にパネラー出演やとくしま県民会議表彰、徳島市 SDGs こども未来チャレンジへの出店、小松島市との見守りネットワーク、フードバンクとくしまの表彰など微力ではございますが行政や他団体との交流を通じて地域のお役立ちにつながる活動をすすめてまいりました。



【徳島市 SDGs こども未来チャレンジ】

また、事業活動では宅配事業は利用される組合員さんを増やす活動として「できている人」、「できているコト」の事例研究を通じて組合員さんのお役に立っている活動をすすめました。店舗事業では、フルセルフレジの導入やクレジット払いもスタートし組合員さんの買い物の利便性向上を図りました。共済事業では、タブレット加入のどこでも加入できる取り組みを実施し遠距離の組合員

さんでもスムーズにご加入いただけるよう取り組みました。

今年も組合員さんの「一人ひとりの組合員さんの暮らしに合わせたとりくみを大切にして、暮らしに役立ち・喜んでいただくこと」を、さらに深化させるとともに強化していく年とします。

さて、2024年11月にはとくしま生協が創立40周年を迎える年になります。

これもひとえに組合員さん、お取引先様、行政、他団体など関係者の皆様と役職員みんなのご尽力の賜物と感謝しております。

40周年を迎えるにあたりこれまでお世話になった皆様をはじめ地域の皆様と一緒に祝いし、喜んでもらえるよう7月に記念式典、11月には生協フェスティバルを予定しております。

これからみんなで創り上げていく方針「2024年度めざしたいこと」を組合員さんとともに役職員みんなで力を合わせて実現できるよう頑張って行きます。

本年も、今まで同様、組合員の皆様、関係者の皆様のご支援をお願い申し上げますとともに、皆様のご多幸を祈念申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。

(専務理事 堺谷 信行)

○徳島県学校生活協同組合

〒779-323 名西郡石井町石井字石井 1845-1
TEL088-679-1357 FAX 088-675-1315
ホームページ <http://www.tokugaku.jp>
理事長 野々村拓也 常務理事 須之内 学
組合員数 8,778人 事業高 7,020万円

新年あけましておめでとうございます。

昨年5月に新型コロナが感染症法上の5類に移行され、イベントやスポーツ観戦でも声出しができるようになりました。その影響もあったのでしょうか、夏の高校野球では慶応高校が107年ぶりに優勝し、プロ野球では阪神タイガースが38年ぶりに日本一に輝きました。これ以外にも2023年は、3月のWBCに始まり、バレーボール、バスケットボール、ラグビーなどで日本チームの活躍が顕著でした。Jリーグ30周年もあり、スポーツによって日本が盛り上がりました。

それとともに、ここ数年新型コロナやウクライナ情勢によって先行きが見通せない状況が続いてきただけに、アフターコロナで購買意欲が高まるのではないかと期待しました。しかし、物価高騰による「買い控え」が続くようにも思われ、そのため、安心して長く使えるモノやコスパの観点から満足度の高いモノへの価値が高まると考えました。そこで、2023年度は「学校生協 ブランド化」を掲げ、組合員の関心を引き満足させ続けることで当生協の価値を高め、学校生協がなくてはならない存在となることを目指しました。

具体的には、これまで組合員がお得と感じてきた自動車保険の団体扱いを、より多くの方に知っていただくためにアンケートを行ったり、それも含めて学校生協の魅力を同僚へ発信していただくために「紹介キャンペーン」を実施したりしました。また12月には、初めてとなる「学校生協感謝祭」を開催し、提携店などによる商品の展示や、資産運用、水、睡眠に関するセミナーを行いました。このように、多くの機会を設けて学校生協のPRをしてきました。また、福利厚生事業としてこれまで人気を博してきた「イチゴ狩り」「みかん狩り」「ぶらり まち歩き」も引き続き実施したところ、定員を上回る応募があり、参加者には大変喜んでいただきました。

いま学校現場は、GIGAスクール構想や働き方改革とともに教員不足の問題が浮上し、変革期にあります。日本の未来は子どもたちにかかっていて、その子どもたちを育てている先生方を支えるのが私たち学校生協です。先生方や日本の教育を支えているという誇りを持って、毎日の業務に携

わるようにしています。学校生協は、組合員の皆様にとって身近で満足していただける組織であり続けるため、今後も新たな事業等に積極的に取り組み、経営改善に努めてまいります。

2024年がすべての組合員様にとって良い年になることを祈念いたします。

徳島県学校生協 理事長 野々村 拓也



〔感謝祭〕提携店の商品展示



〔感謝祭〕聞いて得するセミナー

○生活協同組合コープ自然派しこく

〒779-0102 板野郡板野町川端字川敷田 11 番 1
TEL088-624-9200FAX088-624-9300
ホームページ <http://www.shizenha.ne.jp>

●理事長 泉川 かおり●専務理事 川谷 厚平
●組合員数 16,514 人●事業高 16.7 億円

新年あけましておめでとうございます。
ようやく新型コロナウイルスが落ち着きを
みせ、人々の日常が戻ってきました。

しかし、ウクライナ軍事侵攻が終結しないま
ま、イスラエルのガザ地区への侵攻が始まり世
界はまだまだ厳しい状態が続いています。

このような状況は、引き続き私たちの暮らし
にさまざまな変化を起こしています。

国産自給率の低さゆえに、肥料、資材の高騰
などが農家を直撃し、経営が困難になっており、
物価高騰で貧困問題も深刻化しています。

コープ自然派しこくでは、2022年度から
組合員のみなさまのポイント寄付で運営する
子ども笑顔基金に加えて、今年度はひとり親家
庭にもお米の支援も行いました。今年も引き続
きしっかり運用をさせていただきます。

昨年、コープ自然派事業連合（関西・しこく）
は20周年を迎えました。

1970年に安全な牛乳を子どもたちに飲
ませたいとよつ葉牛乳の共同購入を開始した
のがはじまりです。その後、生協に組織変更し、
2002年に関西・四国の各生協が連合会を組
み20年が経過、組合員も20万人を超過しま
した。

みどりの食糧システム戦略の有機農業2
5%の実現に向けて、コープ自然派が中心となり
一般社団法人日本有機加工食品コンソーシア
ムを昨年設立いたしました。日本のオーガニッ
ク市場拡大とネットワークづくりを推し進め
ています。

2025年には徳島県小松島市にて
ICEBA7（第7回生物の多様性を育む農業国際
会議）、そして愛媛県では全国GMフリーゾ
ン全国集会が開催される予定で、この四国から
様々な取り組みが発信されます。

国産オーガニックをさらに推進し、さまざま
ないのちが調和する有機農業をコープ自然派し
こくから広げ「誰もが有機農産物を食べられる社
会」をめざします。

新しい年が、みなさまにとってさらに良い年と
なりますよう、お祈り申し上げます。
本年もどうぞよろしくお願いたします。

生活協同組合コープ自然派しこく
理事長 泉川 香